

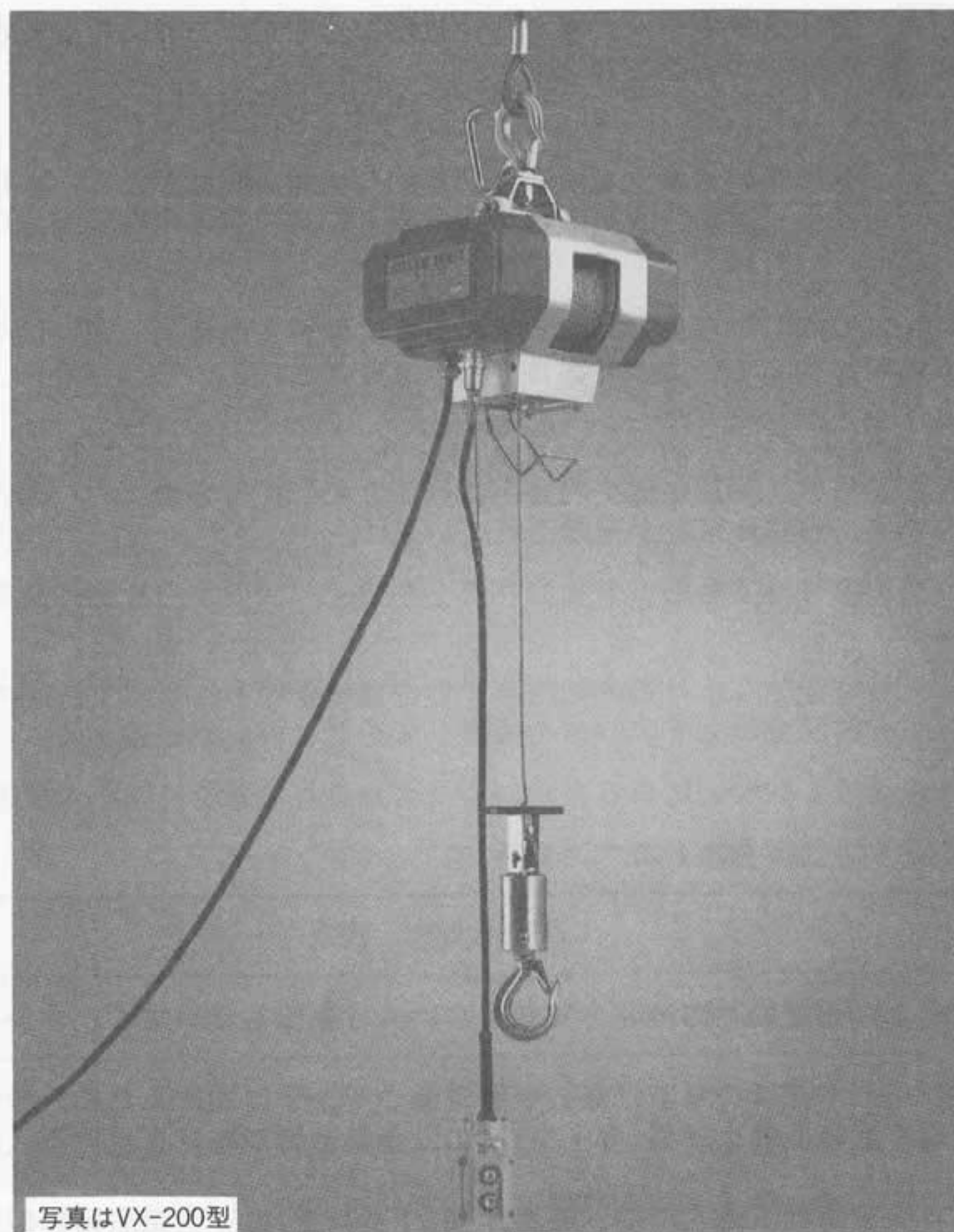
シルバーホイスト V X 型

取説 No. VX08-01

小型電気ホイスト

取扱説明書

- ご使用になるお客様に必ずお渡しください。
- お客様はご使用になる前に、必ずお読みください。



写真はVX-200型

このたびはフジ製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
- 保守点検の際には、この取扱説明書が必要になりますので、お読みになった後は大切に保存してください。

お客様メモ 後日のためにご記入してください。 お問い合わせや、部品のご用命の際 お役に立ちます。	製品の型式	VX-
	定格荷重	
	製造番号	
	ご購入日	年 月 日

株式会社 富士製作所

安全上のご注意

シルバーホイストの使い方を誤ると、つった荷物の落下や感電などの危険な状態になります。
据え付け・取り付け、運転・操作、保守点検の前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用ください。

機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。

この取扱説明書では、注意事項を『危険』、『注意』の2つに区分しています。



危険

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

絵表示の例



◇・△記号は、危険・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が記載されています。



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が記載されています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は必ずアースを接続してください）が記載されています。

*お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

1. 取り扱い全般について

 危険	
● 取扱説明書および注意銘板の内容を熟知しない人は運転しないでください。	
● [事業者の方へ] 本機はつり下げ形の小型電動ウインチに属するため、労働安全衛生法・労働安全衛生規則で定める巻上げ機(ウインチ)の安全衛生特別教育を受けた人に運転させてください。 ※事業者は本機を運転する人には、巻上げ機(ウインチ)の安全衛生特別教育をしなければなりません。	
● 作業開始前の点検や定期自主検査を必ず実施してください。	

2. 据え付け、取り付けについて

 危険	
● 据え付けは、専門知識のある人以外絶対行わないでください。	
● シルバーホイストに雨や水がかかるなど、規定以外の環境には据え付けしないでください。	
● 必ずアース工事を行ってください。 また、アースのほかに漏電遮断器を電路に取り付けてください。	
● 横行および走行のレール端には必ずストッパーを取り付けてください。	
● シルバーホイストを設置する場所に十分な強度があることを確認してください。	
● シルバーホイストは、自由に揺れ動くようにつり下げてください。	

3. 運転と操作について

危険

- 定格荷重を超える荷は、絶対につらないでください。
※定格荷重はボトムフックの銘板に表示してあります。
- つった荷に人は乗らないでください。
また、人の乗る用途には絶対使用しないでください。
- つり荷の下に入らないでください。
- つり荷の動く範囲に人がいるときは、運転しないでください。
- 人の頭上を超えて荷を運搬しないでください。
- 荷をつったまま運転位置を離れないでください。
- 運転中は荷から気をそらさないでください。
- 荷やボトムフックを揺らせるような運転はしないでください。
- 上下限のリミットスイッチを、常時使って止める使い方はしないでください。
- 斜め引きをしないでください。
※荷の真上にシルバーホイストを移動させてからつり上げてください。
- 地球づり（建屋構造物に引っ掛ける操作など）をしないでください。
- つり荷の反転作業はやらないでください。
- 使用前に押ボタンの動作を確認し、押ボタンが円滑に動作しないときは運転しないでください。
- 押ボタンスイッチの指示と違う方向に動くときは直ちに運転をやめてください。
- 使用前にブレーキの動作を確認し、ブレーキが確実に作動しないときは運転しないでください。
- 損傷を受けたり、異音や異常振動がするシルバーホイストを運転しないでください。
- ワイヤロープに次の異常があるときは絶対に運転しないでください。
 - ・素線が断線したもの
 - ・直径の減少（公称径の7%以上減少したもの）
 - ・キンク状態となったもの
 - ・著しい形くずれ、又は腐食したもの
 - ・鋼索油のなくなったもの
- 宙づりした荷を電気溶接しないでください。

注意

- 定格電圧以外では使用しないでください。
- フックの外れ止め金具が破損したままでは絶対に使用しないでください。
- ブラッキング（急逆転）や過度のインチング（寸動運転）をしないでください。
- つり荷をほかの構造物や配線などに引っ掛けないでください。
- 押ボタンコードを他のものに引っ掛けたり、強く引っ張らないでください。
- 本体やトロリをストッパーや構造物に衝突させないでください。
- ワイヤロープを直接荷に巻きつけないでください。
- シャープエッジ（鋭利な角）にワイヤロープを接触させないでください。
- 時間定格を超える使用は絶対にしないでください。
- 本体に取り付けられた、警告および注意表示の銘板やラベルを外したり、不鮮明なまま使用しないでください。
- 使用前にボトムフックが円滑に回転することを確認してください。
- 玉掛け用具はフックに正しく掛けてください。
- 巻上げは、ワイヤロープが張ったところでいったん停止してください。
- 押ボタンの回りにじんあい、砂などがたまり積まないよう常に清掃してください。

3. 運転と操作について（続き）

 注 意	
● 共づりする場合は、2台が連動する操作方式としてください。 ● 作業に対し揚程が十分であることを確認してください。	

4. 保守点検、改造について

 危 険	
● 製品および付属品の改造は絶対にしないでください。 ● 富士製作所純正部品以外は絶対に使用しないでください。	
● 保守点検、修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。 ● 保守点検、修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。 ● 保守点検、修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行ってください。 ● 保守点検で異常箇所があったときは、そのまま使用せず直ちに補修してください。	

 注 意	
● 保守点検、修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。	

ご注意

- 分解、組み立てを伴う検査項目は必ず弊社指定の修理工場あるいは弊社にご用命ください。

注意喚起シンボルの説明

 シンボルは「危険」を告げるものです。（危険信号）

 シンボルは「注意」を告げるものです。（注意信号）

 シンボルは「感電の恐れあり」を告げるものです。（危険信号）

 シンボルは禁止の行為であることを告げるものです。（禁止信号）

 シンボルは行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。（強制信号）

 シンボルは「必ずアースを接続してください」を告げるものです。（強制信号）

目 次

1. 梱包を解いたら	1	10. 保護機構について	8
2. 法的義務について	1	-1. クラッチ機構について	
3. 仕様表	2	-2. 上限レバー（過巻防止装置） と逆巻防止装置	
4. 外観および各部名称	3	11. 保管方法について	9
5. 使用環境上のご注意	3	12. 配線図	9
6. 据え付け	4	13. 故障の原因とその処置一覧	10
-1. 電気配線		14. 分解方法	11
-2. 操作コートの取り付け		15. 保守点検	14
-3. 本体の取り付け		-1. 日常点検	
7. 試運転	5	-2. 月例点検	
8. ワイヤロープについて	5	-3. 年次点検	
-1. ワイヤロープの選定		16. 品質保証について	16
-2. ワイヤロープの取り付け		17. 部品図	17
-3. ワイヤロープの巻取り作業			
9. 正しい運転・操作と注意事項	6		
-1. 玉掛けについて			
-2. 荷の巻き上げ、巻下げ			
-3. 操作スイッチについて			
-4. 安全な作業のため			

ご注意 ●この取扱説明書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

1. 梱包を解いたら

シルバーホイストは一台ごとに十分に調整し、試運転を行った上で出荷しておりますが、輸送中の衝撃等による損傷の可能性も皆無とは言えませんので、梱包を解かれたら念の為次の事項を点検してください。

1. ご注文の仕様のものか。（銘板を確かめてください。）
 2. 輸送中の取扱いにより損傷を受けていないか。
 3. 付属品の欠品、脱落がないか確認してください。
 4. 各部のネジおよびワイヤロープの止め金具等に異常はないか。
- ※ 本体に同梱されています付属資料は取扱説明書（検査証併記）、御使用者カードの2点です。

2. 法的義務について

危険 【事業者の方へ】 本機はつり下げ形の小型電動ウインチに属するため、労働安全衛生法・労働安全衛生規則で定める巻上げ機（ウインチ）の安全衛生特別教育を受けた人に運転させてください。

※事業者は本機を運転する人には、巻上げ機（ウインチ）の安全衛生特別教育をしなければなりません。

関係法令	労働安全衛生法	第59条
	労働安全衛生規則	第36条
	安全衛生特別教育規程	第14条

ご注意 ●シルバーホイストを簡易リフト、エレベータとして使用できません。

※ガイドレールに沿って昇降する搬器に載せて、荷のみを運搬することを目的とする機械装置のうち、搬器の床面積は1m²以下、または天井の高さが1.2m以下のもの（建設用リフトを除く）を簡易リフトという。

又、搬器の床面積が1m²を超え、天井の高さが1.2mを超えるものは「エレベータ」とみなされます。（労働安全衛生法施行令1条）

3. 仕様表

型 式	標 準 型 (一速型)				
	VX-80	VX-120	VX-200	VX-250	VX-300
定格荷重 (kg)	80	120	200	250	300
巻上速度 (m/min)	30	20	12	10	9
揚 程 (m)	20	20	20	20	15
電源電圧	単相 AC 100V 50Hz / 60Hz				
電 動 機	DCマグネットモータ 600W 定格電流 9.3A				
時間定格	8分 (周囲温度 40℃時)				
電源コード	2mm ² ×3芯×5m , アース付2Pプラグ付				
操作コード	1. 25mm ² ×3芯×10m. 2点押釦スイッチ付				
ワイロ-フ [®] 線径 (mm)	φ5	φ5	φ5	φ6	φ6
製品質量 (kg)	17	17	17	20	20

型 式	二 速 型				
	VX-80S	VX-120S	VX-200S	VX-250S	VX-300S
定格荷重 (kg)	80	120	200	250	300
巻上速度 (m/min)	5/30	3.3/20	2/12	2/10	1.8/9
揚 程 (m)	20	20	20	20	15
電源電圧	単相 AC 100V 50Hz / 60Hz				
電 動 機	DCマグネットモータ 600W 定格電流 9.3A				
時間定格	8分 (周囲温度 40℃時)				
電源コード	2mm ² ×3芯×5m , アース付2Pプラグ付				
操作コード	0. 75mm ² ×4芯×10m (2点2段式押釦スイッチ付)				
ワイロ-フ [®] 線径 (mm)	φ5	φ5	φ5	φ6	φ6
製品質量 (kg)	17	17	17	20	20

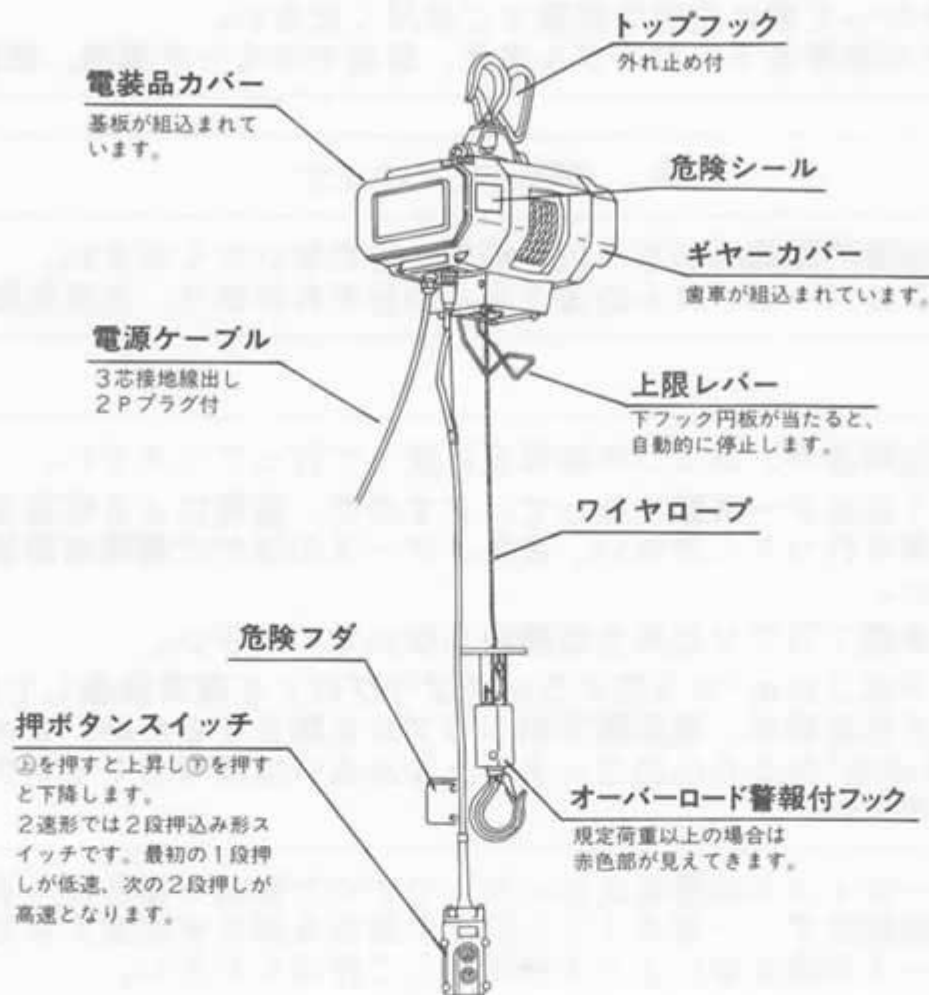
型 式	一 速 無 線 型				
	VX-80R	VX-120R	VX-200R	VX-250R	VX-300R
定格荷重 (kg)	80	120	200	250	300
巻上速度 (m/min)	30	20	12	10	9
揚 程 (m)	20	20	20	20	15
電源電圧	単相 AC 100V 50Hz / 60Hz				
電 動 機	DCマグネットモータ 600W 定格電流 9.3A				
時間定格	8分 (周囲温度 40℃時)				
電源コード	2mm ² ×3芯×5m , アース付2Pプラグ付				
操作コード	操作コード無し, 送信機付 (2点式)				
ワイロ-フ [®] 線径 (mm)	φ5	φ5	φ5	φ6	φ6
製品質量 (kg)	18	18	18	21	21

型 式	二 速 無 線 型				
	VX-80SR	VX-120SR	VX-200SR	VX-250SR	VX-300SR
定格荷重 (kg)	80	120	200	250	300
巻上速度 (m/min)	5/30	3.3/20	2/12	2/10	1.8/9
揚 程 (m)	20	20	20	20	15
電源電圧	単相 AC 100V 50Hz / 60Hz				
電 動 機	DCマグネットモータ 600W 定格電流 9.3A				
時間定格	8分 (周囲温度 40℃時)				
電源コード	2mm ² ×3芯×5m , アース付2Pプラグ付				
操作コード	操作コード無し, 送信機付 (4点式)				
ワイロ-フ [®] 線径 (mm)	φ5	φ5	φ5	φ6	φ6
製品質量 (kg)	18	18	18	21	21

※ 定格荷重、巻上速度は最大巻取時における数値です。

※ 時間定格とは定格電圧、定格周波数で定格荷重を吊り1m巻上げ→休止3秒→1m巻下げ→休止3秒の運転サイクルを行った時の定格時間を表します。

4. 外観および各部名称



5. 使用環境上のご注意

⚠ 危険 ⚠ 使用条件を確認して正しくご使用ください。次の条件での設置やご使用は大変危険ですのでお避けください。

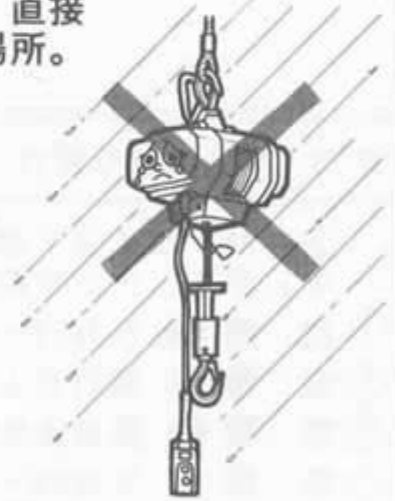
- ・ -10℃以下の低温、40℃以上の高温
- ・ 90%以上の高湿の場所。
- ・ 酸や塩分の多い場所。

※各部の傷みが激しく強度も落ち危険です。



- ・ 野ざらし状態など、直接風雨や雪のかかる場所。

※さびの発生や漏電のおそれがあり危険です。



- ・ 有機溶剤や爆発性粉じんなどのある場所。

※引火爆発などの危険があります。



- ・ 一般粉じんの多い場所。

※動作不良の原因になります



補 足

- 屋外に設置する場合は、内部の錆や絶縁低下を防ぐため、必ず屋根の付いた待避所を作って風雨や雪からお守りください。
- 環境が悪い場所でのご使用に際しては、各部の傷みが激しくなりますので、頻繁に点検を行って常に正常な状態でご使用ください。
※低温での強度低下、ケーブル劣化、高温でのモータ過熱、絶縁劣化など。

6. 据え付け

- ⚠ 危険 ⚠ 据え付けは専門知識のある人以外絶対に行わないでください。
※感電やシルバーホイストの落下などのおそれがあり、大変危険です。

6-1. 電気配線

電気工事は電気設備技術基準、および内線規定に従って行ってください。

- ⚠ 危険 ⚠ 3線の内1芯はアース線になっていますので、漏電による感電を防ぐために、必ずアース工事を行ってください。また、アースのほかに漏電遮断器を電路に取り付けてください。
- ⚠ 注意 ⚠ 電源電圧単相100V以外では使用しないでください。
- ⚠ 注意 ⚠ 電源コードは $2\text{mm}^2 \times 3\text{芯} \times 5\text{m}$ （プラグ付）を標準装備しておりますが、のばして使用される時は、電圧降下のトラブルを防止するため、 $2\text{mm}^2 \times 30\text{m}$ もしくは $3.5\text{mm}^2 \times 55\text{m}$ のコードリールあるいは同等のキャブタイヤケーブルをお使いください。

補 足

- シルバーホイストは懸垂式ホイストですので電源や操作コードは、地上より直接本体に接続せず、一度ホイスト付近で余裕を持たせ固定するなどし、ワイヤロープにコードが絡まないよう十分注意しご使用ください。

6-2. 操作コードの取り付け

- ⚠ 注意 ⚠ 操作コードのコネクタを本体に取付ける時は、コネクタガイド突起の幅の広い部分を手前にして、しっかりと差し込み、リングを十分に締め付けてください。（右図）

十分に締め
付ける



6-3. 本体の取り付け

シルバーホイストは、ワンタッチ式の外れ止め金具付フックで手軽に取り付けることができます。また、フックの交換が簡単にでき、ジブクレーン、トロリにも簡単に取り付けられます。

- ⚠ 危険 ⚠ シルバーホイストを設置する場所に十分な強度があることを確認してください。
- ⚠ 危険 ⚠ 横行および走行のレール端には必ずストッパーを取り付けてください。
- ⚠ 危険 ⚠ 外れ止め金具が確実に掛かっているか確認してください。
- ⚠ 危険 ⚠ シルバーホイストは、自由に揺れ動くようにつり下げてください。
- ⚠ 注意 ⚠ 本体に取り付けられた、警告および注意表示の銘板やラベルを外したり、不鮮明なまま使用しないでください。

- ※ パイプ用フックの場合（オプション）
外れ止め金具を起こし、ホイストを取り付け、外れ止め金具を右図のように確実にセットしてください。



7. 試運転

- ⚠ 危険 ⚠ 作業開始前の日常点検を必ず実施してください。
※日常点検項目は本取扱説明書14頁を参照下さい。
- 最初にスイッチの巻下げを押してワイヤロープを少し繰り出してから、次に巻上げボトムフック受板が上限レバーに当たった時、停止するかを確認してください。
- ⚠ 危険 ⚠ 上限レバーが当たっても停止しないときは直ちに運転をやめてください。
- ⚠ 危険 ⚠ 押ボタンスイッチの指示と違う方向に動くときは直ちに運転をやめてください。
- ⚠ 危険 ⚠ 損傷を受けたり、異音や異常振動がするものは運転しないでください。
- ⚠ 危険 ⚠ ブレーキの動作を確認し、ブレーキが確実に作動しないときは運転しないでください。
- ⚠ 危険 ⚠ ワイヤロープをすべて繰り出し、逆巻き防止装置が確実に動作することを確認してください。

8. ワイヤロープについて

8-1. ワイヤロープの選定

- ⚠ 危険 ⚠ 機種容量、揚程に合った当社推奨のワイヤロープを使用してください。
- ⚠ 危険 ⚠ 使用中のワイヤロープに異常が見つかりましたら、直ちに当社推奨新品ワイヤロープに交換してください。
※異常項目については本取扱説明書14頁の日常点検項目を参照下さい。

8-2. ワイヤロープの取り付け

ワイヤロープ末端部を上限レバーの内角、ガイドローラの間へと順番に通し、更に余巻キープ穴に通してから、ワイヤロープ取付孔に入れ、反対側に完全に突き当たるまで差し込み、最後に六角穴付ボルトでしっかりと締め付けてください。

取り付けが終わりましたら、ワイヤロープを引っ張り、各所に生じた緩みを取り除いてください。

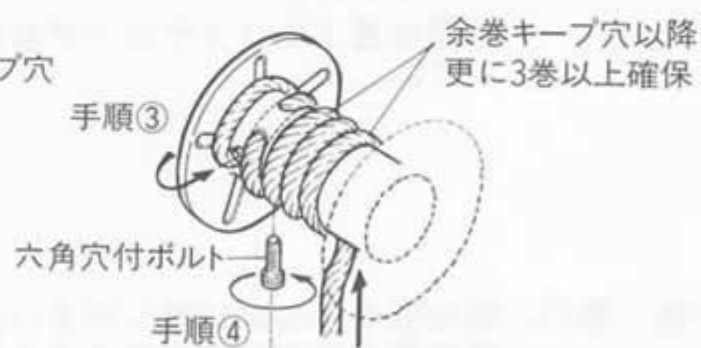
- ⚠ 危険 ⚠ ワイヤロープ取付時、危険ですので本体内に手を入れたまま、絶対にドラムを回転させないでください。
- ⚠ 危険 ⚠ ご使用の際には、更に安全を考慮し、余巻キープ穴以降3巻以上の余巻を確保してご使用ください。



手順① ガイドローラの間を通す。



手順② 余巻キープ穴に通す。



手順③ 取付孔に入れ、反対側に完全に突き当たる迄差し込む

手順④ 六角穴付ボルトをしっかり締め込む。

8-3. ワイヤロープの巻取り作業

- ⚠ 注意 ⚠ 巻取り作業は地巻がしっかりしていないと、ワイヤロープが傷んだり、食い込みの原因になりますので、できるだけワイヤロープを強く引きながら整然と巻き込んでください。
※特に最初の1段を強く張って平均に巻く事が大切です。

9. 正しい運転・操作と注意事項

9-1. 玉掛けについて

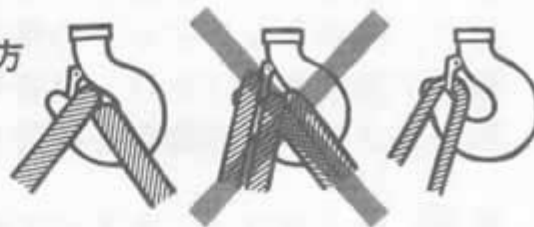
⚠ 注意 ❶ 荷重、形状に適した最も安全な玉掛け用具を使用してください。
※安全率：玉掛けチェーンは5以上、玉掛けワイヤロープは6以上

⚠ 注意 ❷ フックの中央に正しく荷を掛けてください。

正しい使い方



誤った使い方



⚠ 注意 ❸ フックの外れ止め金具が破損したままでは、絶対に使用しないでください。

⚠ 注意 ❹ シャープエッジ（鋭利な角）にワイヤロープを接触させないでください。

⚠ 注意 ❺ ワイヤロープを直接荷に巻きつけないでください。



9-2. 荷の巻き上げ、巻下げ

⚠ 危険 ❶ 定格を超える荷は、絶対につらないでください。
※本体の損傷や吊り荷が落下する原因になり大変危険です。

ボトムフックはオーバーロード警告の役目を持っています。フックのボデー頭部に赤い目印が見えたら、定格荷重を超えています。
巻上げを中止し、荷を軽くしてください。

⚠ 危険 ❷ 荷やボトムフックを揺らせるような運転はしないでください。
※荷の落下やワイヤロープの損傷の原因となります。



赤い目印が見えたら
オーバーロード



⚠ 危険 ❸ 斜め引きはしないでください。
荷の真上にシルバーホイストを移動させてからつり上げてください。
※荷が地上をはうので危険です。
また本体に無理な力が加わり故障の原因となります。

縦引き



横引き

⚠ 危険 ❹ 地球吊り（建家構造物に引っ掛ける操作など）は絶対しないでください。
※無理な力が加わり本体破損の原因になります。

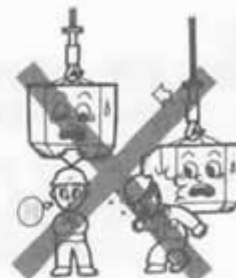


⚠ 危険 ⓧ 上限レバーを常時使って停止させる使い方はしないでください。

※リミットスイッチが損傷し、非常時に働かなくなります。



⚠ 危険 ⓧ 吊り荷の真下や進路方向には入らないでください。
※万一、吊り荷が落下したり、また衝突したりすると大変危険です。



⚠ 危険 ⓧ 吊り荷の反転作業は行わないでください。
※異常に大きな衝撃が発生するおそれがあります。

⚠ 注意 ⓧ 共吊りする場合は荷の傾きなどが無いよう次のことにご注意ください。

※2台のシルバーホイストに均等な荷重がかかるように、荷のバランスをとってください。

※2台が連動する操作方式をしてください。

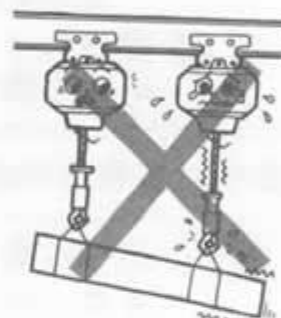
※同一巻き上げ速度のシルバーホイストをご使用ください。

※2台のシルバーホイストが衝突しないように衝突防止装置を取り付けるなどの方法を取ってください。

※吊り具をくふうし、吊り点ピッチが変わらないようにしてください。

⚠ 注意 ⓧ 巻き上げはワイヤロープが張ったところでいったん停止してください。

※地離れの衝撃をやわらげることができ、ワイヤロープの傷みも少なくなります。



⚠ 注意 ⓧ 本体やトロリをストッパーや構造物に衝突させないでください。

※過大な衝撃力により、吊り荷の落下、本体損傷の原因となります。

⚠ 注意 ⓧ 吊り荷を構造物や配線などに引っ掛けしないでください。

※吊り荷落下の原因となります。



⚠ 注意 ⓧ 操作コードや電源コードを引っ張ったり、また操作コードでトロリを引いたりしないでください。

※断線のおそれがあります。



9-3. 操作スイッチについて

■一速型

操作スイッチで『上』を押すと上昇し、離すと停止します。

『下』を押すと下降し、離すと停止します。

■二速型

操作スイッチは2段押し込み型であって、最初の1段押し（浅く押す）が低速、2段押し（深く押す）が高速操作です。

↑↑を押すと上昇し、離すと停止します。 ↓↓を押すと下降し、離すと停止します。

■無線型

送信機の『↑』を押すと上昇し、離すと停止します。

『↓』を押すと下降し、離すと停止します。

⚠ 注 意 ⊗ プラッキング（急逆転）や過度のインチング（寸動運転）をしないでください。

※本体やワイヤロープの寿命を極端に縮めます。

⚠ 注 意 ❶ 操作後、操作スイッチを手から離す時、自然に吊り下がった位置まで周囲に気をつけて戻してください。

※急に離すと他のものに当たったり、誤操作や損傷するおそれがあります。

⚠ 注 意 ❷ 操作スイッチの回りにじんあい、砂などがたい積しないよう常に清掃してください。



9-4. 安全な作業のため

⚠ 危 険 ⊗ 吊った荷に人は乗らないでください。
また、人の乗る用途には絶対使用しないでください。

※吊った荷は不安定で、人の転落や荷が落下するおそれがあります。



⚠ 危 険 ⊗ 吊り荷の下に入らないでください。

⚠ 危 険 ⊗ 人の頭上を超えて荷を運搬しないでください。

⚠ 危 険 ⊗ 吊り荷の動く範囲に人がいるときは、運転しないでください。

⚠ 危 険 ⊗ 荷を吊ったまま運転位置を離れないでください。

⚠ 危 険 ⊗ 運転中は荷から気をそらさないでください。



⚠ 注 意 ⊗ 時間定格を超える使用は絶対にしないでください。

⚠ 注 意 ❶ 作業に対し揚程が十分であることを確認してください。

10. 保護機構について

10-1. クラッチ機構（構造的には部品名称でラチェットAss'yに該当します。）

オーバーロード（地球吊りも含む）、あるいはその他トラブルが発生した場合、クラッチ機構が働き、モータが空転し、ワイヤロープ及び各構造部への波及事故を未然に防止します。

⚠ 危 険 ⊗ クラッチ（ラチェットAss'y）の分解調整を行わないでください。クラッチは適正值で調整され、工場出荷されていますのでお客様での調整は必要ありません。

10-2. 上限レバー（過巻き防止装置）と逆巻き防止装置

過巻き事故を防止する為、上限でボトムフックの円板が上限レバーに当たると、自動的に停止する構造になっています。

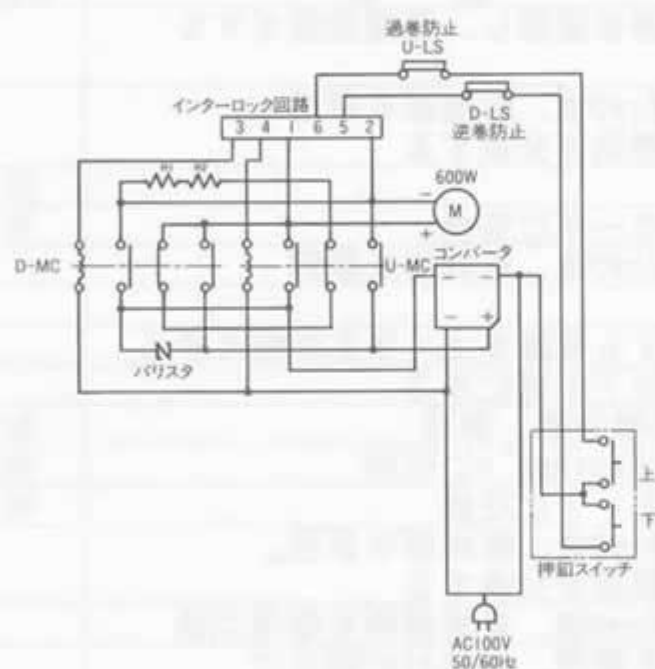
ワイヤロープが逆巻きになった場合、逆巻き防止リミットが働き、自動的に運転停止します。

11. 保管方法について

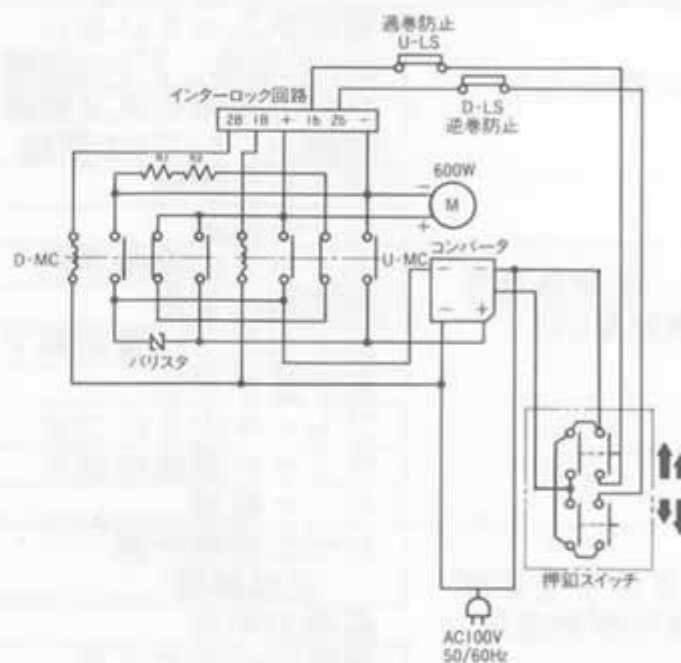
△注意 屋外設置にあたっては本体をカバーで覆うなどの防雨対策をお考えいただくか、待避場所を設けるなどして、本体になるべく直接雨水がかからないようにしてください。また、ご使用後は軒下や雨覆いの下に格納してください。
※雨ざらしにしますと本体に水が入り、発錆や絶縁不良を招くなど思わぬトラブルを引き起こす事があります。

12. 配線図

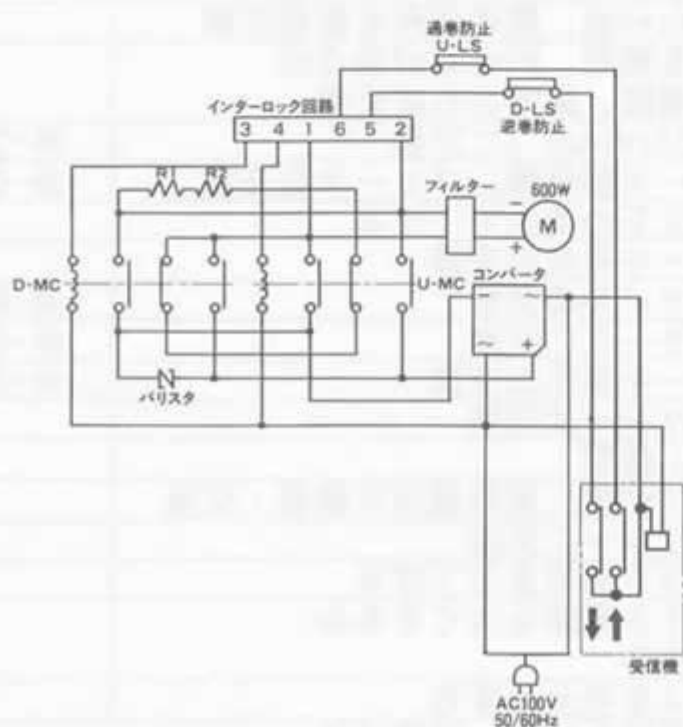
■一速型



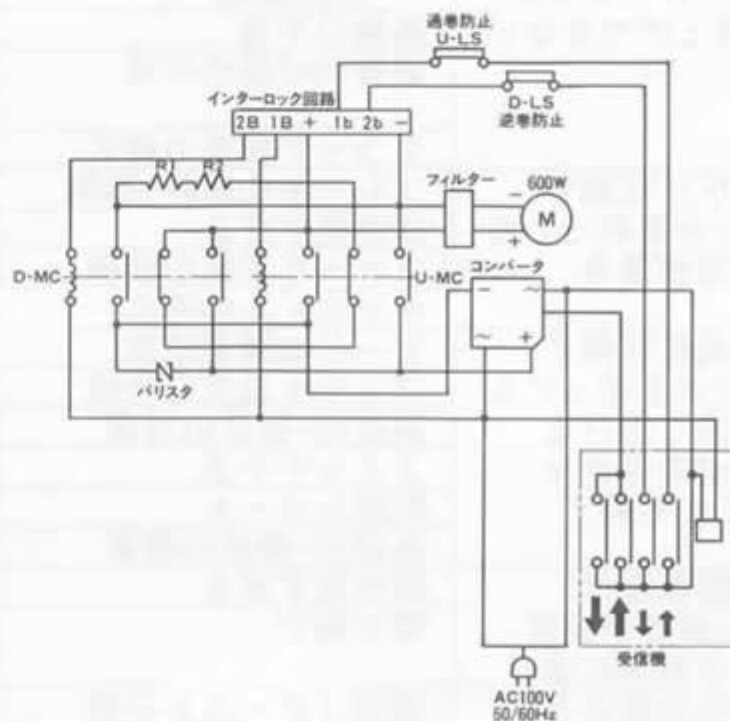
■二速型



■一速無線型



■二速無線型



13. 故障の原因とその処置一覧

ご注意 ●本機の主な故障の原因とその処置について下記に示しましたが、実際の修理を行う場合、比較的高度な専門技術を要する箇所もあり、そのため修理ミスにより事故発生も危ぶまれます。弊社としましてはそのような場合事故責任を負いかねますので、修理は必ずお求めの販売代理店、あるいは弊社にご用命ください。

- ⚠ 危険 ⚠ 製品および付属品の改造は絶対にしないでください。
- ⚠ 危険 ⚠ 富士製作所純正部品以外は絶対に使用しないでください。
- ⚠ 危険 ⚠ 修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。
- ⚠ 危険 ⚠ 保守点検修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。
- ⚠ 危険 ⚠ 修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行ってください。
- ⚠ 注意 ⚠ 修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。

故障状況	故障原因	処置	分解方法
全く動かない	電源が入っていない	配電盤を確認し、通電処置をする	
	ヒューズ切れ、ブレーカ遮断		
	スイッチの接触不良又断線	導通チェック後、断線部を修理	
	配線コードケーブルの断線	損傷部品を交換する	
モータがうなり動かない	ブラシの摩耗	交換	※-①
	モータ焼損	新品モータに交換	※-②
	スイッチの接触不良	導通チェック後、断線部を修理	
	整流器の損傷	交換	
	はなはだしい電圧降下	起因する電線を太くするか短くする	
	荷が重すぎる	定格以下の荷にする	
	ブレーキのくいつき	ブレーキ部分解、修理	※-③
巻上げできるが巻下げできない	クラッチ機能の低下	新品フィットAss'yに交換	※-③
	モータ焼損	新品モータに交換	※-②
	スイッチの接触不良 又は断線	導通チェック後、断線部を修理。 損傷部品を交換する	
	基板の不良	導通チェック後、異常箇所を修理交換	
巻下げできるが巻上げできない	逆巻リミット部の不良	接続を確認、リミットスイッチ接点の 動作確認、異常あれば交換	
	クラッチ機能の低下	新品フィットAss'yに交換	※-③
	スイッチの接触不良 又は断線	導通チェック後、断線部を修理 損傷部品を交換する	
	基板の不良	導通チェック後、異常箇所を修理交換	
巻下げ状態でスイッチを切っても荷が滑る	過巻リミット部の不良	接続を確認、リミットスイッチ接点の 動作確認、異常あれば交換	
	クラッチ機能の低下	新品フィットAss'yに交換	※-③
	ブレーキの摩耗、故障	ブレーキ部分解、ブレーキ板交換	※-③
	荷が重すぎる	定格以下の荷まで下げる	
無負荷状態でスイッチを切っても回り続ける	ブレーキ抵抗の断線	ブレーキ抵抗の交換	
	ギヤオイルの汚れ	ギヤオイルの交換	※-④
	モータの減磁現象	新品モータに交換	※-②
	ブレーキ抵抗の断線	ブレーキ抵抗の交換	※-⑤
スイッチを押さなくても動く	基板リレー接点の溶着	新品リレーに交換	
	スイッチ不良	点検、修理	
	配線ショート	導通チェック後、異常箇所を修理・交換	
定格荷重は上がるが速度が非常に遅い	基板リレー接点の溶着	新品リレーに交換	
	荷が重すぎる	定格以下の荷まで下げる	
本体に触るとヒリヒリする	電圧降下	起因する電線を太くするか、短くする	
	接地（アース）不良	アースを完全にする	
	絶縁不良	異常箇所を修理・交換する	

故障状況	故障原因	処置	分解方法
二速切り替えができない (高速のみ)	インターロック回路の不良	新品リレーに交換	
	スイッチの接触不良	導通チェック後、断線部を修理 損傷部品を交換する	
異常音がする	ギヤの損傷、摩耗	点検、交換	※-④
	潤滑油の不足	補充、交換	
	ネジ部の緩み	点検、増し締め	
	ベアリングの不良	点検、交換	
オイル漏れ	オイルプラグの緩み	増し締め	
	パッキンの傷み	交換	
	ギヤカバー取付ボルトの緩み	増し締め	

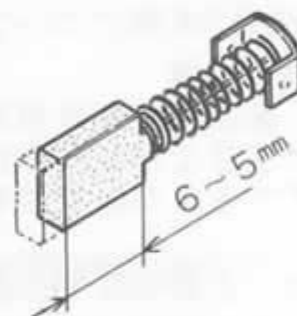
14. 分解方法

前ページの故障の原因とその処置一覧の中から、※印項目について更に具体的に分解方法と処置を示します。

部品構成については部品図を参照の上、実施してください。

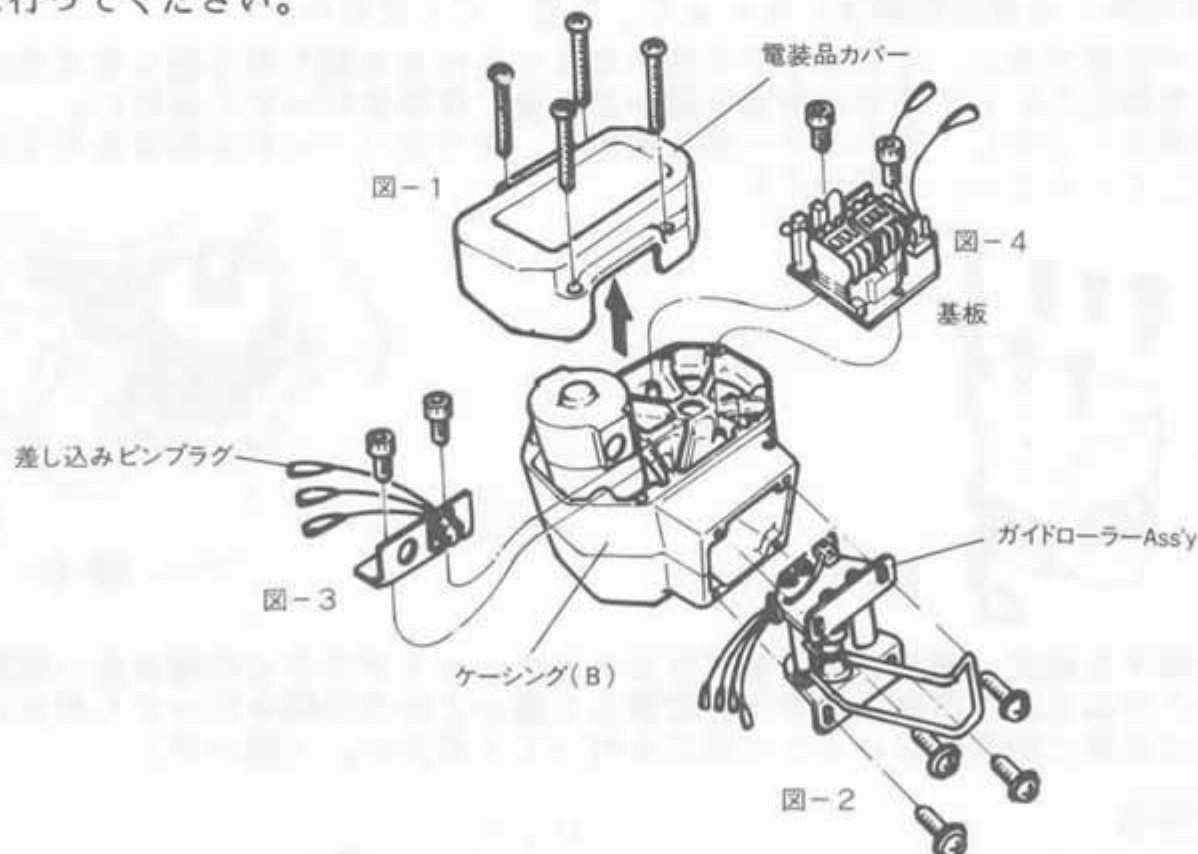
※-① ブラシの交換

電装品カバーを取り外し、モータフレームに付いていますブラシの状態を調べてください。摩耗して右図寸法になりましたら、新しい物と交換してください。



※-② モータ交換方法

ご注意 モータを抜き取った際に、ギヤオイルが流れ出さないように、ギヤボックス側を下にして作業を行ってください。



- ①. 現在ドラムに巻かれていますワイヤロープを取り外してください。
- ②. 操作コードをコード取付板部のコネクターより取り外してください。
- ③. 十字穴付ナベ小ネジを外し、電装品カバーを取り外してください。(図-1)
- ④. ガイドローラAss'yのリミットスイッチ用差し込みピンプラグを取り外し、ケーシング(B)から、ガイドローラAss'yを取り外してください。(図-2)
- ⑤. コード取付板のスイッチ用差し込みピンプラグを取り外し、ケーシング(B)から、アース端子とコード取付板を取り外してください。(図-3)
- ⑥. モータ口出線を基板から取り外し、ケーシング(B)から基板を取り外してください。(図-4)

- ⑦. ケーシング (B) の取付ボルトを
外し、ケーシング (A) から
取り外してください。(図-5)

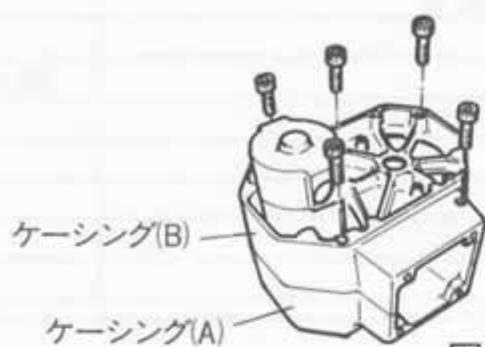


図-5

- ⑧. モータの取付用の六角穴付ボルトを外し、
ケーシング (A) から取り外してください。
(図-6)

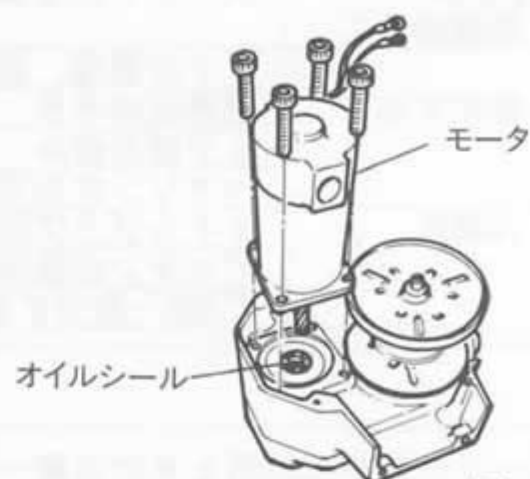


図-6

- ⑨. 新しいモータを取り付ける際は、オイルシールを
傷めないよう注意して下さい。オイルシールを傷
めますと油漏れの原因となります。

- ⑩. 以後の組立手順については、上記手順を逆順番に行ってください。

組立時の注意事項

配線時、基板リード線がセメント抵抗に触れないように配線経路に注意して下さい。インテグレーション操作及び急激な逆転操作が頻繁に行われますとセメント抵抗が発熱し、稀に基板リード線の被覆を損傷させる事があります。

※-③ ブレーキ部の分解方法

くいつきが解除されない場合は、ギヤカバーを取り外しブレーキ部の分解清掃を行ってください。また、クラッチ機能が低下した場合にも同様、ブレーキ部を分解してラチェット Ass'yを交換する必要があります。(ブレーキ分解手順は下記の①から順番に行ってください。)

ご注意 それぞれ取外した部品は紛失しないよう、注意してください。

- ①. オイルプラグを取り外し、ギヤボックス内のオイルを出来る限り取り出してください。
- ②. ギヤボックス側を上にして座りの安定を確かめた後、作業を行ってください。
- ③. 8本の取付ボルトを外し、木ハンマー等を使用し、ギヤカバーの左右前後を交互に叩き、本体から取り外してください。(図-7)

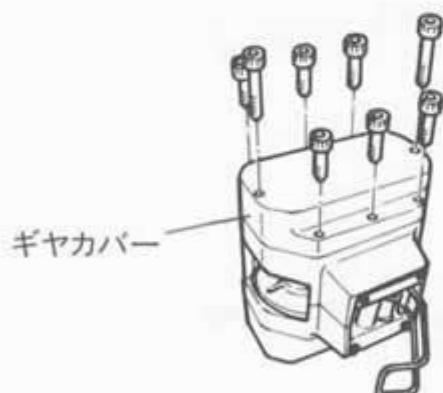


図-7

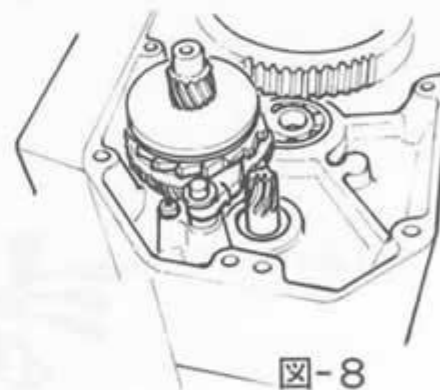


図-8

ブレーキ部を分解する前に、必ずブレーキパウルとラチェットデスクとの噛み合い状態、更にはブレーキスプリングのねじれ位置関係等を十分に覚えて置いてから分解を行ってください。(図-8) 再組立の際、元の状態と間違いないように組立を行ってください。(図-9)

ブレーキ部分解図

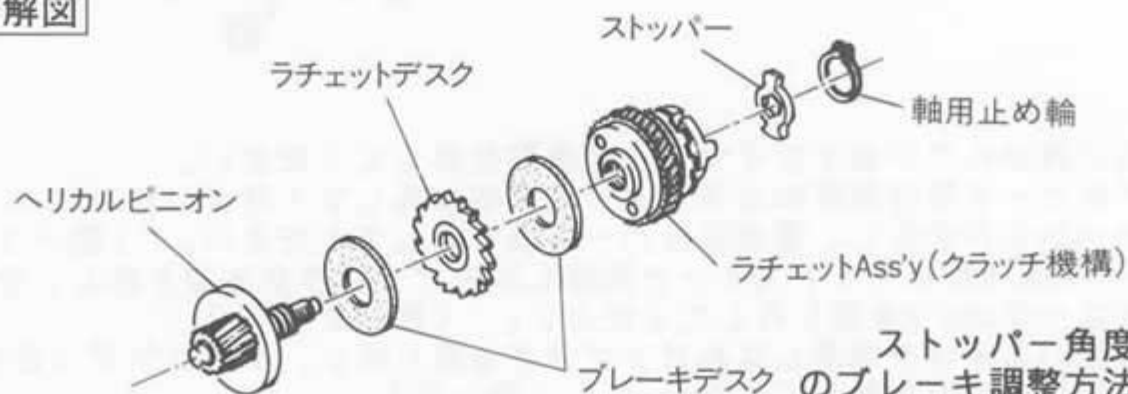


図-9

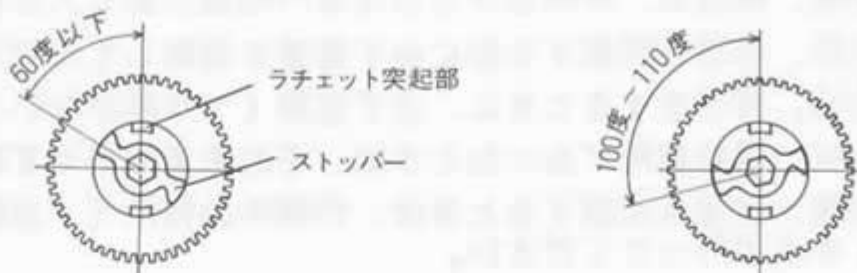
ストッパ角度については次ページのブレーキ調整方法を参照ください。又、ラチェットAss'y(クラッチ機構)の分解は行わないでください。

- ④. 再組立の際には、パッキンのズレやブレーキスプリングに異状が無いかを確認し、組立を行ってください。なお、パッキンは2回の分解まで、再使用が可能です。
- ⑤. ギヤカバーを取付、取付ボルトでしっかり締め付けてください。

ブレーキの調整方法

ブレーキが滑り出したら、ラチェットストッパーとラチェット突起部とのセット角度の再調整が必要です。

前頁の手順にしたがってブレーキ部を分解した後、ヘリカルギヤを一杯に右方向に締め込み、下左図のように、ストッパーの中心線とラチェット突起部中心線が60度以下になるようにセットしてください。



ブレーキ板（ブレーキデスク）の交換

- ブレーキ板の摩耗の著しい物や傷のある物は交換してください。
- ブレーキ板の摩耗限界寸法は0.5mmです。

初期の厚さ	限界の厚さ
2 mm	1.5 mm

したがって、ブレーキ板2枚にて1mmの摩耗になりますが、この時、ラチェットの遊び角度は100～110度になります。（上右図）
ブレーキ板の交換の目安にしてください。

※-④ 潤滑油の交換

ギヤカバーのオイルプラグを取り外し、ギヤボックス内のギヤオイルを完全に取り出し、交換するギヤオイルでギヤボックス内を洗浄した後、新しいギヤオイルを給油して下さい。
給油量は550ccです。

又、適宜パッキンの交換及びギヤカバー取付ボルトの増し締めを行ってください。

普通の使用状態では半年に一度潤滑油（ダフニー・スーパーギヤオイルLW150）（JIS K 2219ギヤ油工業用2種ISOVG150）を入れ替えて下さい。

油脂対照表

会社名	油脂名称	ギヤオイル	グリース
出光興産		ダフニースーパーギヤオイル LW150	ダフニエポネックス SR-1
昭和シェル		オマラ 150	アルバニヤ No.1
キグナス		ギヤオイル ML150	MPグリース No.1
新日本石油		ボンノック M150	マルティノック No.1
コスモ石油		コスモギヤ MO150	コスモダイナマックス No.1
ジャパンエナジー(JOMO)		レダクタス M150	リゾニック No.1
エッソ		スパルタンEP150	リスタン No.1
モービル石油		スモービルギヤ 629	モービラックス 2
ゼネラル石油		ゼネラルFMギヤロール150	ゼミコグリース MP-1

※-⑤ ブレーキ用抵抗の交換

電装品カバーを取り外しますと、基板 Ass'yの上部にある白い磁器2個がブレーキ用抵抗です。
基板リレー端子から抵抗を取り外し、導通を調べてください。導通の無いものや磁器外枠にヒビ割れが発生しているものは新品と交換してください。

15. 保守点検

故障に対する基本的な対策は、保守点検による予防的措置をとることです。そのためにも、日常点検、月例点検、年次点検を確実に実施してください。

比較的高度の専門知識を要する月例、年次点検については弊社の指定する専門の修理店で行ってください。

- ⚠ 危険 ⚠ 保守点検、修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。
- ⚠ 危険 ⚠ 保守点検、修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。
- ⚠ 危険 ⚠ 保守点検、修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行ってください。
- ⚠ 危険 ⚠ 保守点検で異常個所があったときは、そのまま使用せず直ちに補修してください。
- ⚠ 注意 ⚠ 保守点検、修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。

15-1. 日常点検

毎日作業を始める前にホイストを空荷のまま運転して、次の事項について確認してください。

点 検 項 目	処置及び対策
1. 取付状態が確実に安全性に問題はないか。	目視確認
2. 押釦スイッチを押し、表示通りの回転方向であるか。	分解修理
3. リミットスイッチは確実に動作するか。	分解修理
4. ブレーキの効き具合はよいか。	分解修理
5. 平素と異なる音はしないか。	分解修理
6. ワイヤロープに異常はないか。	目視確認
-1. 素線が断線していないか。	交換
-2. 直径の減少が公称径の7%をこえていないか。	交換
-3. キンク状態の有無	交換
-4. 著しい形くずれ、又は腐食	交換
-5. ロープエンドの異常の有無	締め付け
-6. 鋼索油塗布の有無	給油
7. フックに異常はないか。	目視確認
-1. 口径が開き、外れ止め金具が外れてないか。	交換
-2. 著しく変形してないか。	交換
-3. き裂、クラックがないか。	交換
-4. フックピンの曲がりや変形がないか。	交換
8. 本体に有害な傷、クラックがないか。	交換
9. 本体各部の取付ネジ・ボルト類に脱落、緩みがないか。	締め付け
10. 玉掛用具に異常はないか。	目視確認

15-2. 月例点検

ホイスの月例点検は、安全上の重要性、保守上の難易、使用頻度の大小、消耗品か否か等によって、各部品の点検時期を定めるのが望ましいので下表に示すように点検基準を分類します。

分類	分類基準	運用
A 級	安全上重要な点検事項	原則として毎月1回点検する。
B 級	機械の保守上重要な点検事項	頻度の高い場合は毎月1回点検する。
C 級	B 級に準ずる点検事項及び消耗部品	3ヶ月に1回は点検した方がよい。
D 級	摩耗破損度合いの少ない部分	3～6ヶ月に1回は点検した方がよい。

点 検 項 目			分類	良否	不良内容及び処置
操 作 関 係	押釦スイッチ	1 接点の摩耗状態	C		
		2 配線締付ネジの緩み	B		
		3 動作状態	A		
		4 ケース絶縁板の損傷の有無	B		
		5 絶縁の状態（1 MΩ以上である事）	B		
	リレー	6 接点の摩耗状態	C		
		7 配線締付ネジの緩みの有無	B		
		8 インターロック回路の動作状態	C		
	ブレーキ抵抗	9 割れの発生及び断線の有無	C		
	リード線	10 外傷の有無及び緊結状態	C		
	ケーブル	11 外傷の有無及び取付状態	B		
	過 巻 リミット	12 各部の損傷	A		
		13 上限レバーの動作状態	A		
		14 接点の状態	C		
		15 締付ネジの緩みの有無	C		
	逆 巻 リミット	16 各部の損傷	A		
		17 可動鉄片の動作状態	A		
		18 接点の状態	C		
		19 締付ネジの緩みの有無	C		
	クラッチ機構	20 定格荷重の125%以上で作動	A		
	ブレーキ	21 滑りの有無	A		
ワイ ヤ ロ ー プ	ワイヤ ロープ	22 素線の断線	A		
		23 直径の減少（公称径の7%以下）	B		
		24 キンクの有無	A		
		25 著しい形くずれ、又は腐食	A		
		26 ロープエンド異常の有無	A		
		27 鋼索油塗布の有無	C		
フ ッ ク	フック	28 摩耗の状態	A		
		29 き裂の有無	A		
		30 口径の開き、変形の有無	A		
本 体	フレーム	31 き裂の有無	D		
	ドラム	32 変形、ツバ部の損傷	D		
	ネジ・ボルト	33 脱落、緩みの有無	A		
玉 掛 用 具	ロープ	34 断線、キンク、摩耗、傷の有無	A		
	吊チェーン	35 ピッチの伸び、リンク断面の減少 き裂の有無	A		
	シャクル	36 変形、摩耗、き裂の有無	A		
試 運 転	巻上、巻下	37 動作が正しいか、異常音がないか	A		
	リミットスイッチ	38 上限及び逆巻で正しく動作するか	A		
	ブレーキ	39 正常に動作するか	A		

補足・備考

使用頻度は荷重、実動時間、起動停止、インチングの回数を総合して考慮してください。

ブレーキ動作試験は、荷重を吊り、巻下げ中、スイッチを切ってから停止するまでの荷重の移動距離が1分間の巻上距離の1%以下が正常です。

15-3. 年次点検

点 検 項 目				点 検 基 準	良 否
機 械 構 造	歯 車	1	巻上げ歯車歯厚の摩耗	ピッチ円上で原寸厚さの10%以下	
		2	噛み合い歯面の状態	異常摩耗がないこと	
		3	給油の状態	油量が適正及び劣化の有無	
	表 示 ブレーキ	4	銘板等の表示の状態	銘板等の表示が読み取れること	
		5	ブレーキ板の摩耗	著しい摩耗がない事 限界厚さ1.5mm	
	油 脂	6	補充、交換	補充3ヶ月・6ヶ月 交換	
		フック	7	吊り具の掛かる部分の摩耗	原寸の厚さの10%以下
	8		フックの口径の開き	変形がないこと	
	9		フックの外傷	亀裂その他有害な傷が無い事	
	10		フックねじ部の異常	亀裂その他有害な傷摩耗が無い事	
	ワ イ ヤ ロ ー プ	11	素線の断線	素線の断線がないこと	
		12	直径の減少	公称径の7%以下である事	
		13	変形、腐食など	著しい形崩れ、キック、腐食が無い事	
		14	ロープエンドの異常	特に断線、腐食に注意の事	
		15	ワイヤロープの長さ	規定寸法である事	
	そ の 他 機械部分	16	損傷の有無	有害な損傷が無い事	
電 装 部 品	スイッチ	17	接点の損傷	著しい損傷・変色の無い事	
		18	機構部分の損傷	作動上の支障が無い事	
	配 線	19	キャブタイヤーケーブル	外傷、老化、素線の切れかかり	
		20	リード線	特に端末処理部に異常が無い事	
	絶 縁 基 板	21	全回路の絶縁抵抗値	1 MΩ以上である事	
		22	電磁開閉器接点の損傷	著しい損傷・変色の無い事	
組 立	全 般	23	ブレーキ抵抗の異常	割れ及び断線していない事	
		24	潤滑油	適油を適量入れる事	
動 作 確 認	作 動	25	組立塗装	所定の正しい方法で行う事	
		26	無負荷で作動確認	表示通り動作する事	
	過巻リミット	27	無負荷及び定格荷重 でドラム停止後の状態	フックを巻上げる余裕が50mm以上 ある事	
	フ*レーキ滑り	28	定格荷重で巻下げ中 停止操作を行った時の滑り	フックの滑りが1分間の巻上げ 距離の1%以下である事	
	メカニカルフ*レーキ	29	定格荷重で宙吊り機能	荷重を保持し滑りが発生しない事	
	クラッチ機構	30	クラッチ機構の機能	定格荷重を吊り上げ、クラッチの 空転及びくいつきが無い事	
	巻上げ	31	定格荷重での巻上巻下機能	巻上巻下を全使用揚程で2回以上行 い異常が無い事	

16 . 品質保証について

弊社では製品の品質を1年間保証いたします。

次の保証期間内の故障または破損した製品については無償にて修理いたします。

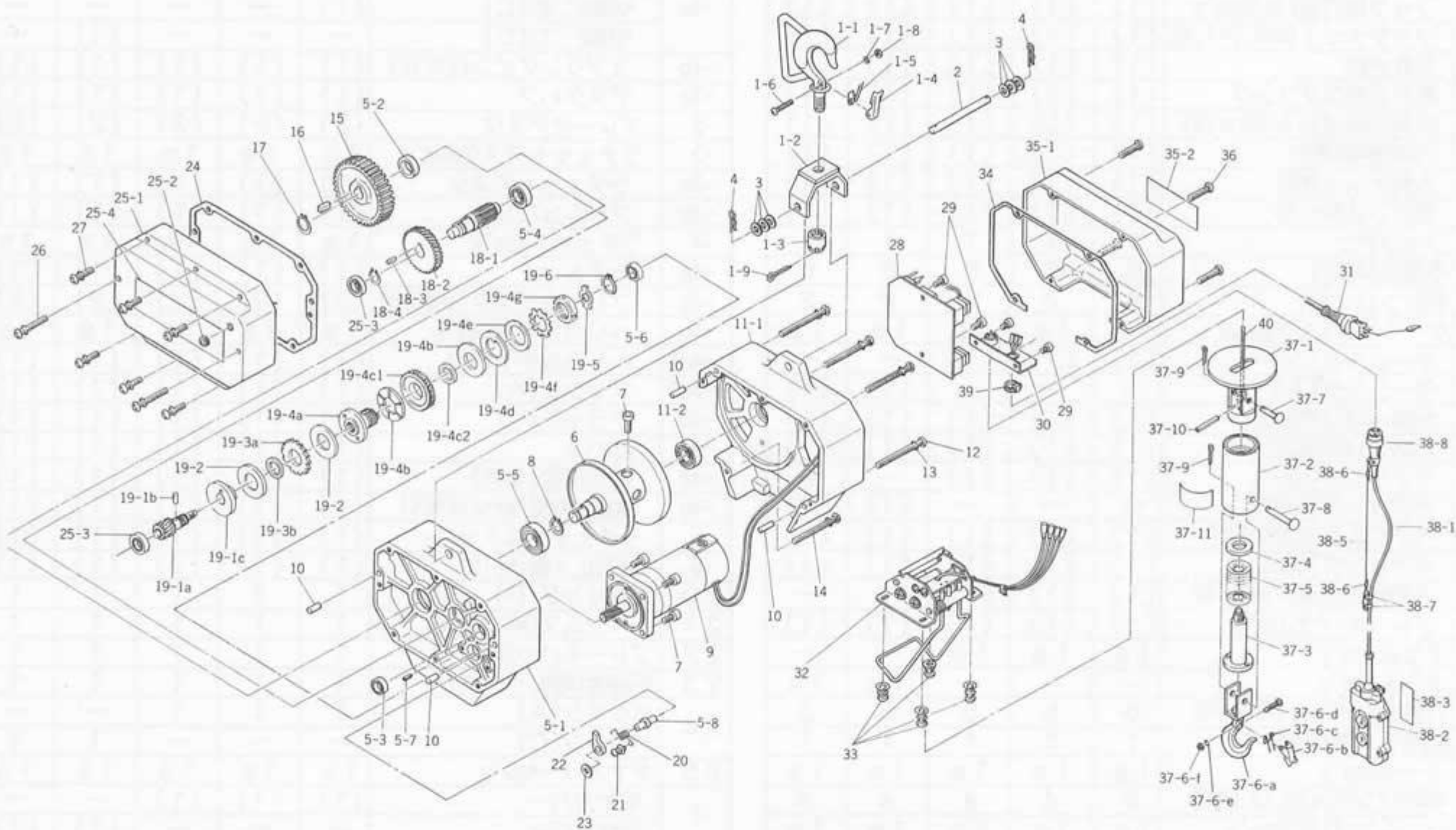
- (1) 製品に同封の『御使用者カード』の郵送消印日付けより1年間
 - (2) 前項のカードのご返送なき場合は検査合格証の『検査日』より1年間
- ただし次のような場合は保証いたしかねますのでご注意ください。

- (1) 時間定格を超える高頻度で使用された場合。
- (2) 定格を超える荷重で使用された場合。
- (3) 製品および付属品を勝手に改造された場合。
- (4) 本取扱説明書に記載した注意事項を順守されなかった場合。
- (5) 使用条件を超える過酷環境下で使用された場合。
- (6) その他、当社の責任と認められない事項が原因による場合。

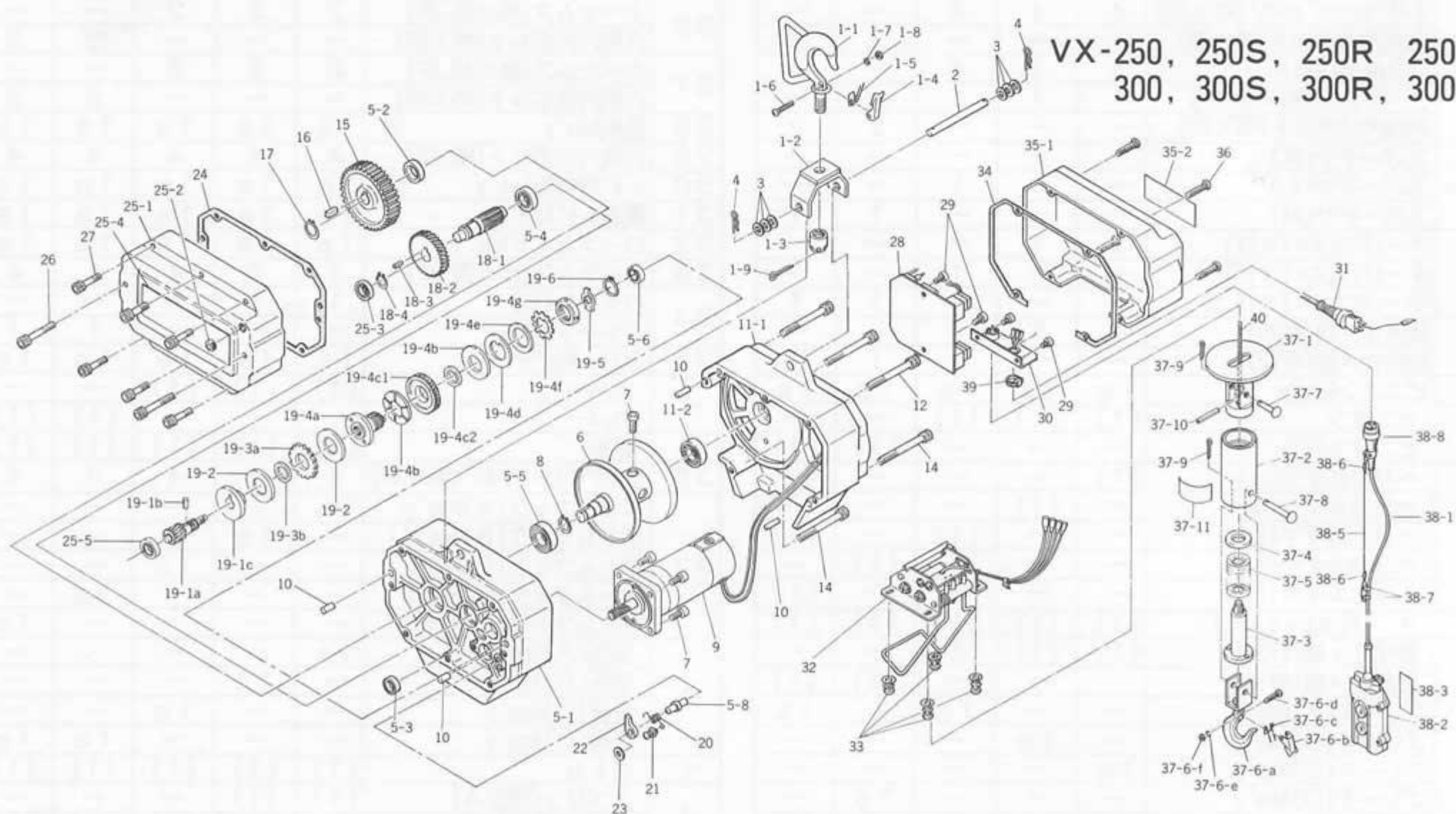
本機の故障による納期遅れなどの2次損害については、保証いたしかねます。このような事態が予想される場合には、あらかじめ補機などを準備されるか、当社にご相談ください。なお、保証期間内であっても離島または離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

17. 部品図

VX- 80, 80S, 80R, 80SR
120, 120S, 120R, 120SR
200, 200S, 200R, 200SR



VX-250, 250S, 250R, 250SR
300, 300S, 300R, 300SR



番号	部 品 名	型 式 と 個 数				
		VX-80 シリーズ	VX-120 シリーズ	VX-200 シリーズ	VX-250 シリーズ	VX-300 シリーズ
1	トップフックAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	トップフック	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-2	フック取付板(B)Ass'y	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3	フックナット(M16,P=1.5)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4	外れ止め	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-5	外れ止めスプリング	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-6	六角穴付ボルト(M4×18)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-7	バネ座金(呼4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-8	六角ナット(M4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-9	割ピン(M3×18)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
2	フックピン	1	1	1	1	1
3	平座金(呼12)	6	6	6	6	6
4	割ピン(3×18)	2	2	2	2	2
5	ケーシング(A)Ass'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	ケーシング(A)	(1)	(1)	(1)	—	—
-2	オイルシール(AC1260AO)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3	オイルシール(AC0382AO)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4	ベアリング(6301)	(1)	(1)	(1)	—	—
-4	ベアリング(6204)	—	—	—	(1)	(1)
-5	ベアリング(6205・ZZ)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-6	ベアリング(608)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-7	六角穴付止メネジ(M6×6)	(1)	(1)	(1)	—	—
-8	ブレーキバウルピン	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
6	ドラムAss'y	1 s	1 s	1 s	—	—
6	ドラムAss'y	—	—	—	1 s	1 s
7	六角穴付ボルト(M6×20)	5	5	5	5	5
8	軸用止メ輪(呼25)	1	1	1	1	1
9	モータAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
10	平行ピン(6×25,h7,B形)	4	4	4	4	4
11	ケーシング(B)Ass'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	ケーシング(B)	(1)	(1)	(1)	—	—
-1	ケーシング(B)	—	—	—	(1)	(1)
-2	ベアリング(6201・ZZ)	(1)	(1)	(1)	—	—
-2	ベアリング(6204・ZZ)	—	—	—	(1)	(1)
12	十字穴付ハネ小ネジ(M5×85)	4	4	4	—	—
12	六角穴付ボルト(M6×80)	—	—	—	3	3
13	バネ座金(呼5)	4	4	4	—	—
14	ナベセムス(M5×75,2P)	1	1	1	—	—
14	六角穴付ボルト(M6×75)	—	—	—	2	2
15	スパーギヤ(K)	1	1	—	—	—
15	スパーギヤ(L)	—	—	1	—	—
15	スパーギヤ(M)	—	—	—	1	1
16	キー(片丸8×7×11)	1	1	—	—	—
16	キー(片丸8×7×17)	—	—	1	—	—
16	キー(片丸8×7×19.5)	—	—	—	1	1
17	軸用止メ輪(呼20)	1	1	1	—	—
17	軸用止メ輪(呼22)	—	—	—	1	1
18	ピニオンAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	ピニオン	(1)	(1)	(1)	—	—
-1	ピニオン(D)	—	—	—	(1)	(1)
-2	ヘリカルギヤ(J)	(1)	—	—	—	—
-2	ヘリカルギヤ(I)	—	(1)	—	—	—
-2	ヘリカルギヤ(H)	—	—	(1)	—	(1)
-2	ヘリカルギヤ(L)	—	—	—	(1)	—
-2	ヘリカルギヤ(K)	—	—	—	—	(1)
-3	キー(片丸5×5×9.7)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4	軸用止メ輪(呼20)	(1)	(1)	(1)	—	—
-4	軸用止メ輪(呼18)	—	—	—	(1)	(1)
19	ブレーキ(A)Ass'y	—	—	1 s	—	1 s
19	ブレーキ(B)Ass'y	—	1 s	—	—	—
19	ブレーキ(C)Ass'y	1 s	—	—	—	—
19	ブレーキ(D)Ass'y	—	—	—	1 s	—
-1	ヘリカルギヤ(A)Ass'y	—	—	1 s	—	1 s
-1	ヘリカルギヤ(B)Ass'y	—	1 s	—	—	—
-1	ヘリカルギヤ(C)Ass'y	1 s	—	—	—	—
-1	ヘリカルギヤ(D)Ass'y	—	—	—	1 s	—

番号	部 品 名	型 式 と 個 数				
		VX-80 シリーズ	VX-120 シリーズ	VX-200 シリーズ	VX-250 シリーズ	VX-300 シリーズ
19	ヘリカルギヤ(A)	—	—	(1)	—	(1)
-1a	ヘリカルギヤ(B)	—	(1)	—	—	—
-1a	ヘリカルギヤ(C)	(1)	—	—	—	—
-1a	ヘリカルギヤ(D)	—	—	—	(1)	—
-1b	スプリングピン(3×12)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-1c	デスクハブ	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-2	ブレーキデスク	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
-3	ラチェットデスクAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-3a	ラチェットデスク	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3b	ブッシュ(B)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4	ラチェットAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-4a	ラチェット	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4b	ブレーキデスク(#6300)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
-4c	ヘリカルギヤAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-4c1	ヘリカルギヤ(M)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4c2	ブッシュ(A)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4d	クラッチハブ	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4e	皿バネ	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4f	歯付座金(AW05)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-4g	ジョイント軸受用ナット(AN05)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-5	ラチェットストッパー	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-6	軸用止メ輪(呼10)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
20	スプリング(D)	1	1	1	1	1
21	ナベセムス(M4×8,3P)	1	1	1	1	1
22	ブレーキバウル(A)	1	1	1	1	1
23	平座金(呼8,小形丸)	1	1	1	1	1
24	パッキン(A)	1	1	1	—	—
24	パッキン(C)	—	—	—	1	1
25	ギヤカバーAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	ギヤカバー	(1)	(1)	(1)	—	—
-1	ギヤカバー	—	—	—	(1)	(1)
-2	六角穴付ネジプラグ	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3	ベアリング(6201)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)
-4	注意事項ラベル(E)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-5	ベアリング(6301)	—	—	—	(1)	(1)
26	ナベセムス(M5×65,2P)	2	2	2	—	—
26	六角穴付ボルト(M5×60)	—	—	—	2	2
27	ナベセムス(M5×40,2P)	6	6	6	—	—
27	六角穴付ボルト(M5×40)	—	—	—	6	6
28	基板Ass'y ※	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
29	六角穴付ボルト(M5×8)	4	4	4	4	4
30	ジョイント取付板Ass'y ※	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
31	電源ジョイントAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
32	ロープガイドAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
33	ナベセムス(M5×20,3P)	4	4	4	4	4
34	パッキン(B)	1	1	1	—	—
34	パッキン(D)	—	—	—	1	1
35	カバーAss'y	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	カバー	(1)	(1)	(1)	—	—
-1	カバー	—	—	—	(1)	(1)
-2	銘板	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
36	十字穴付ハネ小ネジ(M5×50)	4	4	4	4	4
37	ボトムフック(A)Ass'y	1 s	—	—	—	—
37	ボトムフック(B)Ass'y	—	1 s	—	—	—
37	ボトムフック(C)Ass'y	—	—	1 s	—	—
37	ボトムフック(D)Ass'y	—	—	—	1 s	—
37	ボトムフック(E)Ass'y	—	—	—	—	1 s
-1	受板(A)Ass'y	1 s	—	—	—	—
-1	受板(B)Ass'y	—	1 s	—	—	—
-1	受板(C)Ass'y	—	—	1 s	—	—
-1	受板(D)Ass'y	—	—	—	1 s	1 s
-2	ボトム	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3	スプリング受(A)	(1)	(1)	—	—	—
-3	スプリング受(B)	—	—	(1)	(1)	(1)
-4	ワッシャー	(1)	(1)	—	—	—
-4	ワッシャー	—	—	(1)	—	—
-4	カラー(P)	—	—	—	(1)	—
-4	カラー(N)	—	—	—	—	(1)

番 号	部 品 名	型 式 と 個 数				
		VX-80 シリーズ*	VX-120 シリーズ*	VX-200 シリーズ*	VX-250 シリーズ*	VX-300 シリーズ*
-5	皿バネ(DB-14L)	(10)	(10)	—	—	—
	皿バネ(DB-20L)	—	—	(10)	(7)	(5)
-6	フック	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-a	フック溶接Ass'y	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-b	外れ止め	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-c	外れ止めスプリング	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-d	六角穴付ボルト(M4×18)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-e	バネ座金(呼4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-f	六角ナット(M4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-7	丸リベット(8×36)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-8	丸リベット(8×60)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-9	割ピン(3×15)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
-10	スプリングピン(3×20)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-11	注意事項ラベル(A)	(1)	—	—	—	—
	注意事項ラベル(B)	—	(1)	—	—	—
	注意事項ラベル(C)	—	—	(1)	—	—
	注意事項ラベル(F)	—	—	—	(1)	—
	注意事項ラベル(G)	—	—	—	—	(1)
3 8	操作コードAss'y ※	1 s	1 s	1 s	1 s	1 s
-1	操作コード ※	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-2	操作スイッチ ※	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-3	注意事項ラベル(D)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-5	ミニチュアロープ(FF100)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
-6	端末金具(PE-2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
-7	インシュロック(T18R)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
-8	メタルコンセント ※	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
3 9	コネクタ	1	1	1	1	1
4 0	ワイヤロープ(φ5×21m)	1	1	1	—	—
	ワイヤロープ(φ6×21m)	—	—	—	1	—
	ワイヤロープ(φ6×16m)	—	—	—	—	1

●無線型(全機種共通)送信機・受信機部品

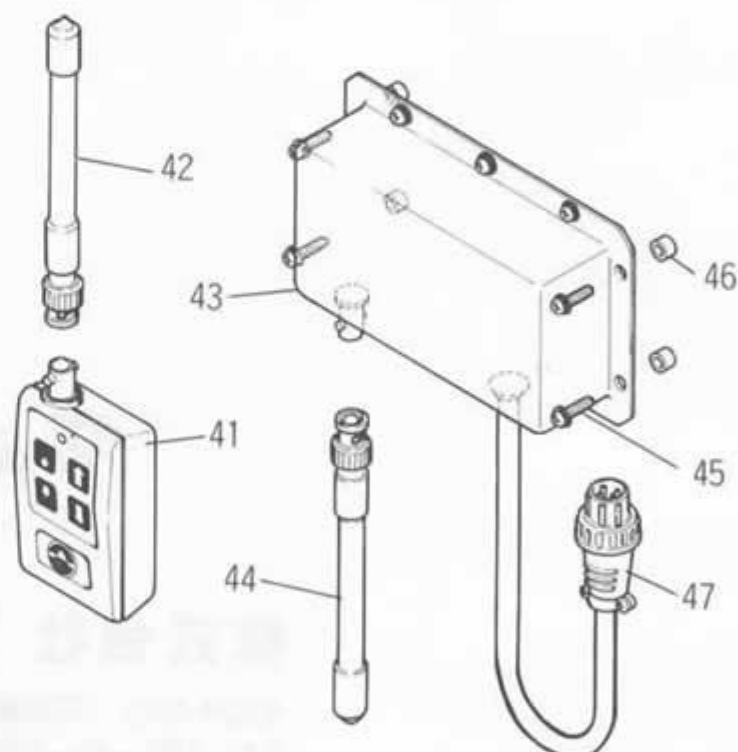
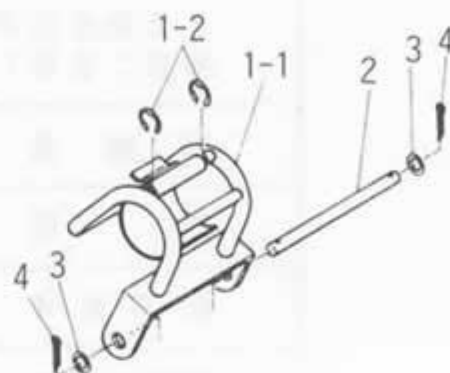
番 号	部 品 名	型 式 と 個 数				
		VX-80 シリーズ*	VX-120 シリーズ*	VX-200 シリーズ*	VX-250 シリーズ*	VX-300 シリーズ*
4 1	送信機 ※	1	1	1	1	1
4 2	送信機アンテナ ※	1	1	1	1	1
4 3	受信機 ※	1	1	1	1	1
4 4	受信機アンテナ ※	1	1	1	1	1
4 5	十字穴付ハ*小杉*(M4×16)	4	4	4	4	4
	十字穴付ハ*小杉*(M4×10)	4	4	4	4	4
4 6	カラー	4	4	4	4	4
4 7	メタルコンセント ※	1	1	1	1	1

●電装小部品一覧

番 号	部 品 名	型 式 と 個 数				
		VX-80 シリーズ*	VX-120 シリーズ*	VX-200 シリーズ*	VX-250 シリーズ*	VX-300 シリーズ*
4 8	ブラシ	2	2	2	2	2
4 9	電磁接触器	1	1	1	1	1
5 0	ブレーキ用抵抗	2	2	2	2	2
5 1	整流器	1	1	1	1	1
5 2	トライアック ※	1	1	1	1	1
5 3	インターロック ※	1	1	1	1	1

●オプション(全機種共通)パイプ用フック仕様部品

番 号	部 品 名	個数	備 考
1	上フックAss'y	1	
1-1	上フック	(1)	
1-2	クリセント形止メ輪	(2)	5103-31
2	フックピン	1	
3	ワッシャー	2	呼12
4	割ピン	2	呼3.2×22



ご注意 無線式を同じ場所で複数台ご使用になる場合、各々の送信機のチャンネル周波数が同じですと混信して誤動作し大変危険です。
無線式を同じ場所で複数台ご使用の際には、弊社へお問い合わせください。

ご注意 部品表中の一部部品に付記してあります※印は、当該部品が型式および仕様別によって、それぞれ異なることを示しております。部品注文の際には十分にご注意ください。

お願い また、部品注文の際には、次の事項をご確認後、弊社へご用命ください。

①. 型式 ②. 製造番号 ③. 部品名および部品番号
例 ; VX-80R一速無線式 , 製造番号□□□□, 部品番号37のボトムフックAss'yと
詳しくお確かめの上、ご注文ください。

検 査 合 格 証 この製品は弊社の品質規格にもとづき製造され、 検査に合格したことを証明します。	
機 械 名	シルバーホイスト
型 式	V X ー
製 造 番 号	
検 査 年 月 日	
検 査	

販売元 株式会社 富士製作所
 本 社 〒104-0033 東京都中央区新川2-13-11
 TEL 03-3555-3031
 コールセンター TEL 0761-55-0253 FAX 0761-55-3519
 0120-57-0253

製造元 富士MFG株式会社
 〒929-0101 石川県能美市赤井町は-195番地
 TEL 0761-58-0383 FAX 0761-58-1881